

「教員免許更新講習」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
40	25	25	(1日目13人 2日目12人)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・体験活動の意義や効果を理解するとともに、実際の自然体験活動を通じて安全に配慮した指導法を体得する。国立若狭湾青少年自然の家の立地・環境を生かした特徴的な体験活動を通しての講習を実施する。
- ・体験活動としてシーカヤックとスノーケリングを予定しているが、荒天時等で実施できない場合は、「活動プログラムの立案に関する演習」または「安全管理に関する演習」を実施する。

◆期日・期間

2015年 10月24日（土） シーカヤック体験と学習指導に生かす体験活動Ⅰ
 2015年 10月25日（日） スノーケリング体験と学級経営に生かす体験活動Ⅱ

◆参加者分析

- ・幼・小・中・高や特別支援学校からのべ25人の申込みがあった。
- ・30代～50代まで幅のある年齢構成となった。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
10 月 24 日 (土)	受 付	開 講 式	講 義 学習指導に生かす体験活動Ⅰ 福井大学 稲垣 良介 氏	昼 食 ・	実 習 「自然体験活動の技術と安全管理」 シーカヤックを使って 若狭湾 企画指導専門職				評 価 試 験	諸連絡	解散
10 月 25 日 (日)	受 付	開 講 式	実 習 「自然体験活動の技術と安全管理」 スノーケリングを通して 若狭湾 企画指導専門職	昼 食 ・	講 義 学級経営に生かす体験活動Ⅱ 福井大学 杉山 晋平 氏			評 価 試 験	閉 講 式	解散	

講 師 福井大学大学院教育学研究科准教授 稲垣 良介 氏
 福井大学大学院教育学研究科特命助教 杉山 晋平 氏
 国立若狭湾青少年自然の家

主任企画指導専門職 入矢 完

◆運営のポイント

- ・学校生活における「野外活動」の安全性と、子どもたちの成長を促すための支援のあり方をそれぞれの日程で理解していただけるように構成すると共に、講義の中ではグループ討議等も取り入れ、積極的に講座に参加できるように配慮した。
- ・シーカヤックやスノーケリングを体験では、子どもたちの解放感や体験に潜む危険性について理解していただくように配慮した。また、自らが指導するにあたって、それぞれの活動をどのようにとらえたかを意見交流し、「自分だったら」という視点を常に持つていただくように配慮した。
- ・各学校での自然体験活動での運営者となることから、道具・資材の準備・後片付けの一切を含めての活動内容とした。

◆安全管理のポイント

- ・普段子どもたちが行う活動を、忠実に再現し、常に安全管理者として心がけるべきことを意識しながら活動できるように支援すると共に、安全監視する人員を増やし周囲の状況や参加者の体調管理、天候の様子などをいち早く情報共有出来るように配列した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	78%	22%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	67%	27%	6%	0%
この事業の運営はどうでしたか	83%	17%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・体験型で学べたことがとてもよかったです。
- ・たくさん話し合う場面もあり、様々な校種の方と話が出来てよかったです。
- ・季節的にもう少し安定するときだといいですね。

4. 成果と課題

(1) 福井大学との連携について

- ・連携2年目であり、運営について、スムーズに行うことができた。天候不良により、午前午後の活動を入れ替えたりしたが、スムーズに運営することができた。
- ・福井大学として、体験活動を取り入れたこのプログラムは特徴的であり、次年度以降も維持して行きたいとのこと。全体的に更新講習に参加者が減少している中で、大変ありがたいとのことであった。

(2) 来年度に向けて

- ・天候不良で、波が大きい中でのスノーケリングになり、活動時間も短縮された。時期及び荒天時の代替場所の確保も必要である。次年度は、実施時期を平成28年10月8日（土）～9日（日）で提案したい。わくわく体験塾と日程が重なるが、関わる職員の数から考えると、十分対応できると考える。また、荒天時の代替場所を須の浦、谷吸、阿納などで実施できないか模索する必要がある。

5. 活動の様子

